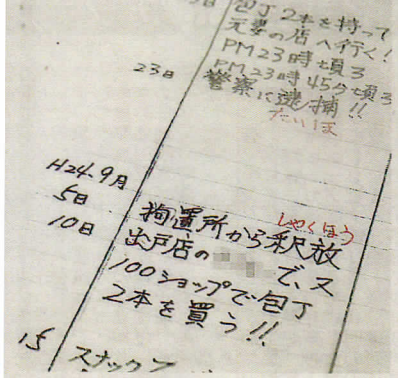
許せない 殺して俺も死ぬ

思いを募らせた相手につきまとい、殺害にまで至るのはなぜか。大阪で38歳の女性を刺殺し、懲役30年の判決を受けた男に問うた。

23日女性が刺殺された植え込み付近＝大阪市平野区長吉長原西3丁目



松本受刑者から記者に届いた手紙。事件の経緯が記されていた（居名にモザイクをかけています）

大阪・平野 38歳女性刺殺

ストーカー 語った凶行まで

男の名は松本隆、59歳。福岡県出身、独身、3回の離婚歴あり。5月に大阪地裁で懲役30年の判決を受け、服役した。

大阪市平野区の路上で、事件は起きた。昨年5月2日午前2時半、車で待ち伏せしていた男は、自転車で帰宅する女性を見つけると、追いかけて転倒させ、頭や腹、首を包丁で刺して殺害した。女性はスナック店員。男は客だった。

今年1月9日、大阪拘置所の面会室で本人に会った。短く刈った頭に鋭い目つき。記者だと名乗ると、「取材なんか受ける気ないよ」。すぐにドアの向こうへ立ち去った。

だが、判決後の6月8日に再び訪れると、穏やかな表情で言った。「心境が変わった。記事でストーカーの怖さを伝えてくれよ。俺の言うことが歯止めになるかもしれない」

以後は1回10分、計8回の面会で本人が語った、事件までの経緯だ。

1956年、福岡県飯塚市で生まれた。炭鉱で働く父は2度目の結婚で、父の連れ子の兄1人と姉2人、3歳上の実姉がいた。

その父は、5歳のときに自殺した。母は小学1年のころに再婚した。義父は酒を飲むと手をあげた。母は何度も入院し、自分も中学1年のときにビール瓶で頭を殴られ、7針を縫った。

中学を卒業し、キャバレーやパチンコ店の従業員などを経て、33歳でトラック運転手になった。大阪と東京を片道12時間、週3回往復。常に寝不足だった。

37歳で3度目の結婚。長女と長男を授かった。「自分以外の幸せが、自分の幸せなんだと初めて感じた」という。46歳で3500万円のローンを組み、2階建ての一軒家を買った。

そんな人生は50歳で暗転する。ある日、脳梗塞になり、左半身が思い通りに動かなくなった。4年後には舌がんを患った。仕事を続けられなくなり、自己破産した。妻とは離婚することになった。大阪市平野区の市営住宅に1人で移り、生活保護で暮らし始めた。

一人でも何とかなる。

そう思っていた。だが、やがて負の感情を抑えられなくなる。「部屋は暗いしメシは自分で。子どもにだって会えない。何度も復縁を求めた」。でも、受け入れられなかった。「これまでの20年間はなに？　絶対に許さないって思った」

13年6月、男は元妻の勤め先に押しかけ、包丁で元妻を脅し、殴りつけた。傷害罪などで執行猶予つきの有罪判決を受けた。

釈放後も恨み続けた。13年9月、市営住宅の近くのスナックに立ち寄り、親身に話を聞いてくれる女性店員に偶然出会った。

それが被害者だった。

男は店に通い、メールを送り続けた。あまりの執拗さに店側が出入りを禁じると、「納得できへん」などと33通のメールを送りつけた。相談を受けた府警は14年3月、ストーカー規制法に基づいて男に警告した。

「いきなり警察なんて許せない。女性を殺して俺も死ぬ。悪いとわかっていたが、見境がなくなった」

検察によると、女性を刺殺したとき、男は「俺がどんだけ好きか、わかったか！」と叫んだという。

専門家「カウンセリング必要」

ストーカーの治療に携わる精神科医の福井裕輝氏(46)は「愛情、嫉妬、恨みなどの感情がコントロールできなくなり、究極の形の殺害に至った」と見る。

著書「ストーカー病」の中に、こんな指摘がある。相手から「連絡は迷惑」と言われ、接触をやめる人がいる一方、嫌がられても、行動を修正できないのがストーカー病。自分の気持ち、自分の良さを理解しない相手が悪いという思い込みがある。男も勾留中に福井氏の本を読んでいた。「しゃあないよ、病気だったんだ」

福井氏は幼少期の虐待のほかに、事件前の要因を指摘する。「脳梗塞や破産により、社会生活をうまく送れていない。孤独を感じれば自暴自棄にもなりやすい。相手を殺して自分も死ぬという彼に必要なのは、警告ではなく、カウンセリングや就労支援だった」

ストーカー問題に詳しい常磐大の諸沢英道教授(73)＝犯罪学＝は「ストーカーは独占欲が非常に強く、相手が逃げるほど追いかける。彼は犯行によって達成感に満ちている。なぜなら、女性を誰にも奪われない理想の状況をつくりだしたからだ」と語る。

最後の面会から5日後、男から手紙が届いた。そこに、反省や後悔の言葉はなかった。事件を起こしたのは他人に原因があると書かれていた。

（飯島健太）

昨年の被害 最多2.2万件

昨年1年間に警察が把握したストーカー被害は2万2823件（前年比1734件増）。ストーカー規制法が施行された00年以降で最多だった。

ストーカー行為が続く場合、加害者の執着心や支配意識を取り除くことが有効ではないか――。警察庁は現在、こうした観点から治療の効果や方法を調べている。3月の報告書によると、国内で治療に取り組む一般社団法人・男女問題解決支援センターの活動を検証したところ、精神科医や臨床心理士の治療で攻撃的な言動が減るなど、危険度が低くなる例があった。